

智頭町

# 智 頭 町

連絡先：企画課 電話：0858-75-4112  
ファクシミリ：0858-75-1193

## <智頭町の概要>

人口：7,718人  
世帯数：2,569戸  
高齢化率：35.5%  
(平成22年国勢調査)



## 【地区振興協議会設立の背景と経緯】

日本1/0村おこし運動が平成9年度にスタートし、実施集落においては都市との交流や特産品の開発といった自主的・主体的な取り組みが芽生え、新たな住民自治システムが根付きつつあるが、過疎化・高齢化は依然として進行するなど地域活力の低下が懸念され、この運動をいかに継承・発展させていくかが課題となっている。

一方、「行政」においては、人口の減少や地域経済の低迷などから税収の確保が困難となっている中で、少子・高齢化社会の到来等により厳しい財政運営を強いられており、行財政改革による経費の削減や人員削減等から、行政サービス水準の低下が懸念される。

そこで、集落単位で育んできた草の根の住民自治を地区レベルにまで拡大するボトムアップの運動を基本としながら、地区単位のゼロイチ運動を推進することとし、地区と行政が互いに協働・補完しながら地域課題の解決を図りつつ智頭町独自の地域づくりを目指すものである。

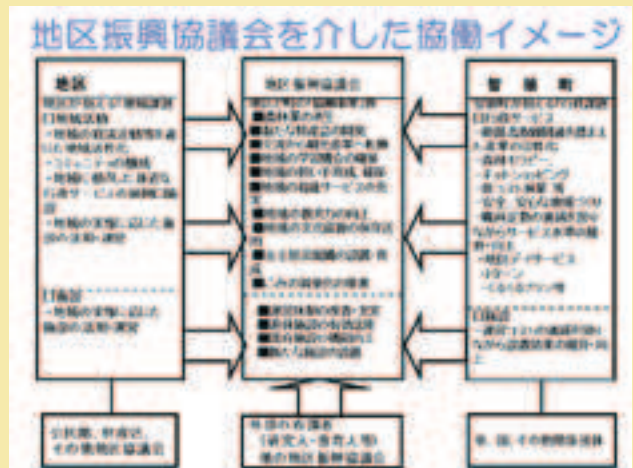
平成9年度	・日本1/0村おこし運動開始 7集落が運動開始
平成10年度	・2集落が運動開始
平成11年度	・1集落が運動開始
平成12年度	・4集落が運動開始
平成13年度	・1集落が運動開始
平成14年度	・1集落が運動開始(計16集落) ・過疎地域自立活性化優良事例表彰総務大臣賞受賞

平成20年度	・山形地区振興協議会、山郷地区振興協議会運動開始
平成22年度	・いざなぎ振興協議会運動開始
平成23年度	・富沢地区振興協議会、土師地区振興協議会運動開始

## 【行政と地区振興協議会の関係】

地区振興協議会では、町の管理職職員が副会長として参加する体制をとっている。これにより、地区振興協議会で挙げられた課題はただちに町の幹部会議に伝わり、必要に応じて速やかに町の全体の施策の中で協議できる仕組みになっている。

こうした仕組みを作ったのは、10年間に及ぶ集落のゼロイチ運動が補助金の終了で一つの区切りを迎え、それまでの活動を卒業した集落が「次に何をやるか」と考えたときに、高齢化や防災といった町全体とも重なる行政的なテーマが増えてきており、行政が深く入り込む枠組みが必要と考えたからである。



## 【課題と展望】

平成23年度末をもって5地区にあった小学校が閉校となり、この跡地をいかに活用していくのかということも、それぞれの地区の大きな課題となっている。

幸い、やる気と知恵にあふれた地区ばかりであり、素晴らしいアイデアにより活気のある施設に生まれ変わることを期待している。

八頭

智頭町

山形地区振興協議会

<団体概要>(平成 26 年 8 月現在)  
 住 所 〒689-1415  
 八頭郡智頭町郷原 238  
 設 立 平成 20 年 4 月  
 代表者 会長 竹内 康和  
 構成員 地区会員 103 名 (対象は全地区民)  
 役員 32 名  
 (町議会議員 3 名、町職員 2 名含む)  
 集落数 12 集落  
 電 話 0858-75-0343 F A X 0858-75-3860

<参考>地区の概要 (平成 26 年 8 月現在)  
 ・人 口 1,104 人  
 ・世帯数 383 戸  
 ・高齢化率 38.9 %



▲ 山形地区振興協議会活動拠点 (旧山形小学校 職員室)



竹内 康和会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

住民の皆さんが働き、生活する地域に”誇り”を持ち、地域独自の歴史や文化・自然を大切にしまちづくりをすすめています。設立当初からこれまで継続してきた山形地区振興協議会の二本の柱である『福祉』と『共育』をモットーにした活動をこれからも続けていきます。

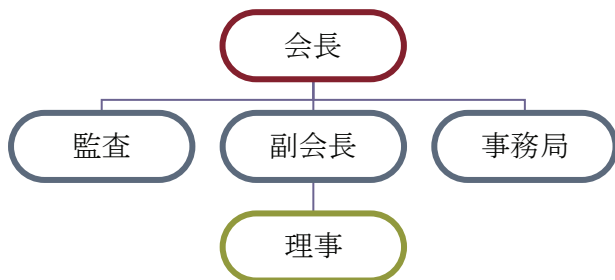
主な取組の概要

- ・旧村および旧小学校区を区域とし、住民自身が主体性と社会性を持ちより活発な地域づくりを行う。
- ・「福祉」と「共育(共に育む)」を軸に、都市との交流や世代間交流を積極的かつ継続して行う。

2020 年を見据えた地域づくり



◆ 組織図 ◆



◆ 広報チラシ ◆



◆ 情報発信 (ブログ・Facebook) ◆



ブログ <http://blog.livedoor.jp/ikiikiyamagata/>

Facebook <http://www.facebook.com/koiyamagata>



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

年間事業計画と決算報告書を全戸配布

▲ イベントごとにチラシを配布

◆ 活動写真 ◆



▲ 住民主体の居場所づくり「森のミニデイ」



▲ 自作のドラム缶窯ピザ等でイベント出店



▲ 地元中学生の地域学習にも協力



▲ 智頭杉等を使った木エクラフト教室



▲ 県との協働連携事業（智頭林業展示他）

取組に至る背景・経緯・目的

- ・急速に進む過疎と高齢化を踏まえ、住んでいる人が少しでも楽しく充実感をもって暮らせるよう寄与できればと考えている。
- ・住民の思いや希望に沿った活動を基本にした地域づくりを進めるため、まず住民アンケートを実施。
- ・アンケート結果を全戸チラシでフィードバックするとともに、「福祉」と「共育」をモットーにすることを明言し、継続している。

取組の成果

- ・仲間づくりの輪が徐々に広がり、活動への協力や関心が高まってきた。
- ・地区内外からの各種団体からの視察や各大学からのフィールドワーク来訪が増え、都市との人的ネットワークも広がっている。
- ・参加スタッフの役割、得意分野が発揮できる。

取組に工夫・苦労した点

- ・発足当時は全集落が組織立ち上げに賛成したわけではなかったが、着実に活動を続けることで賛同者や協力者が増えてきた。
- ・学生等若い力や県外者の視点、個々の斬新なアイデアや意見を取り入れてお互いに刺激し合い、新しい交流を深めている。この活発な交流が山形地区の財産ともいえる。
- ・情報収集、事業財源、人材の確保。

今後の取組内容・長期的な目標

- ・「森のミニデイ」の継続。
- ・地区の智頭杉を使ったものづくりの推進。
- ・他団体、行政と協働して事業を行う。
- ・地域の魅力を発掘、発信して交流人口を増やす。
- ・若い世代の参加、拡充を図る。



▲ 智頭杉のスティック



▲ 智頭急行 恋山形駅  
智頭杉のハート絵馬



▲ 手作りワンコイン  
「森のミニデイ」昼食

八頭

智頭町

山郷地区振興協議会

<団体概要>(平成26年8月現在)

住所 〒689-1425 八頭郡智頭町福原19番地

設立 平成20年

代表者 会長 中澤 皓次

構成員 役員 約20名・部員 約60名

集落数 6集落

電話 0858-75-0221 FAX 0858-75-0221

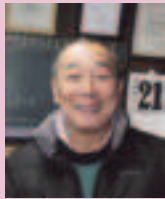
<参考>山郷地区の人口等(平成26年8月現在)

人口 583人 世帯数 209戸

高齢化率 39.6%



▲ 山郷地区振興協議会の拠点「R373 やまさと」



中澤 皓次会長

◆◆◆代表者のコメント◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

山郷じまんの木の校舎を利用した新しい拠点が誕生し、平成26年度から、営業や展示など4店舗がオープンしました。来年度は多目的宿泊施設やサロンの整備に取り組んでいきたいと思います。役員一同、飲みかけしよんを図りながら目標に向かって一致団結！

主な取組の概要

- ・「R373 やまさと」(旧山郷小学校)及び鳥取自動車道 智頭福原PAの利活用促進
- ・地区内全戸に火災警報機の設置運動(防災・減災)など・・・安全な暮らし部会
- ・智頭福原PAにてテント市の開催(ヨソとの交流)など・・・交流広場部会
- ・我が家の味自慢コンテスト開催(特産品の発掘)など・・・地産地消部会

◆ 組織図 ◆



◆ 情報発信 ◆



▲ フェイスブックで全世界へ情報発信(山郷地区振興協議会)



▲ 「R373 やまさと」のテナント

◆ 活動写真 ◆



▲ 防災・減災講習会(安全な暮らし部会)



▲ 新山郷村 テント市(交流広場部会)



▲ 特産品開発(地産地消部会)



▲ 「R373 やまさと」のサロン

取組に至る背景・経緯・目的

山郷地区振興協議会は、“新たな地区を自分たちの手で作っていく”「創造的昔帰り＝住民自治」を目指しています。すなわち、地区という小さな単位の中で、「ひと・もの・かね」が健全に循環し、持続できる社会（住民自治の確立と地域経営による経済循環）を目指していきます！

取組の成果

- ・意欲ある中堅・女性・Iターン者などの主体的な参加が増え、地区の人がつながってきた。≠関心がない人や若者の参加があまりないなどの弱点も・・・
- ・大学や都市部などの外部の組織や、人との交流が活発に行われるようになった。

取組に工夫・苦労した点

元京都大学防災研究所所長（現関西学院大学教授）岡田憲夫先生に、「SWOT分析」や「四面会議」の手法を学び、ワークショップで山郷地区振興協議会の目的・手段などの計画の枠組みを構想しました。

今後の取組内容・長期的な目標

「R373 やまさと」（旧山郷小学校）及び鳥取自動車道 智頭福原PAを“公共空間”及び“ヨソとの交流拠点”と位置づけ、できることから、ひとつずつ実行し、子ども達が生活できる様な山郷を目指していきます。

<p><b>郷山キッチン「おむすびころりん」</b></p> <p>&lt;コンセプト&gt; 「自家用野菜でつくる、おふくろの味 →地産地消率99%をめざして～」</p> <p>&lt;内容&gt; 手づくりメニューの惣菜レストラン</p>	<p><b>お菓子工房「くりのみ学組」</b></p> <p>&lt;コンセプト&gt; 「地域のお菓子屋さん」</p> <p>&lt;内容&gt; 地元で採れるフルーツまでできる限り活用し、お客様のご様々なニーズに応えた商品を受注販売します</p>
<p><b>木と手づくりギャラリー「ひとと木」</b></p> <p>&lt;コンセプト&gt; 「木とふれあい、地元の木材の情報発信」</p> <p>&lt;内容&gt; 木材の素材から加工製品を展示・販売</p>	<p><b>アートギャラリー「さとやま」</b></p> <p>&lt;コンセプト&gt; 「アーティストと町民との交流の場」</p> <p>&lt;内容&gt; 漂流物やゴミを使った作品の展示</p>

▲ 「R373 やまさと」のテナント紹介

<団体概要> (平成 26 年 8 月現在)

住 所 〒689-1451  
八頭郡智頭町大字大背 205

代表者 会長 前川 義憲

構成員 那岐地区民

集落数 12 集落

電 話 0858-78-0611

F A X 0858-78-0611

<参考> 那岐地区の概要 (平成 26 年 8 月現在)

- ・人 口 1,089 人
- ・世 帯 数 350 戸
- ・高齢化率 35.9 %



▲ いざなぎ振興協議会活動拠点



前川 義憲会長

◆◆◆ 代表者のコメント ◆◆◆◆◆◆◆◆◆

私たちいざなぎ振興協議会は、「いざなぎ活性化ビジョン」のもとに活動しています。

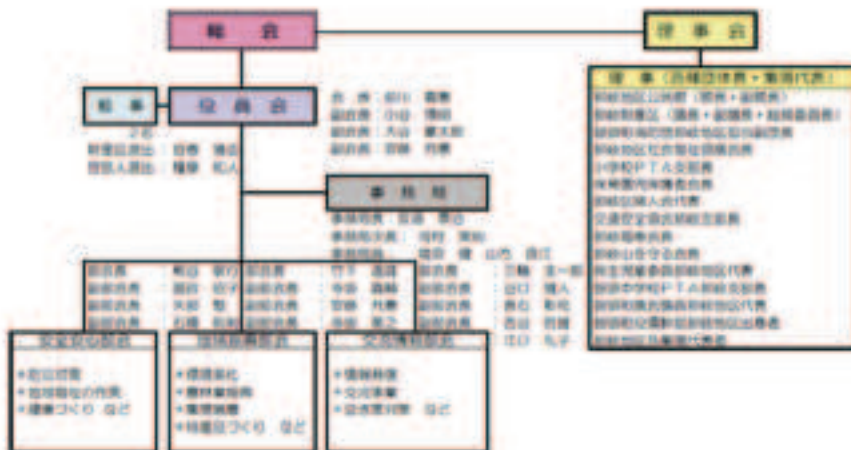
イザナギ・イザナミの神様の庇護のもと、良いと思えばみんなで作って、失敗したらやり直す、というように誰でも気兼ねなく、和気あいあいと進めることができる活動を目指しています。

主な取組の概要

- ・「いざなぎ活性化ビジョン」を策定し、元気で優しい那岐が好き、住民が輝く那岐が好き、心のふれあう那岐が好きを合言葉に、地域福祉、健康づくり、防災対策、環境美化、農林業の振興、特産品づくり、情報発信、交流事業などに取り組んでいる。
- ・子ども福祉ボランティア体験事業、自主防災組織の立ち上げ、那岐山登山、農産物・特産品の販路開拓などのほか、山ガールファッションショー「いざなみコレクション」、婚活イベント「本気の婚活」、福島県の被災した子供たちを旧那岐小学校で受け入れる「とっとりサマーキャンプ」などを実施している。

◆ 組織図 ◆

いざなぎ振興協議会組織図



### 取組に至る背景・経緯・目的

- ・平成 19 年度に那岐保育園が休園、平成 24 年度春には那岐小学校を含め町内 6 小学校が整理統合されるということを契機に、地域の連帯感や活力が失われ、閉塞した地域になりはしないかという危機感から、将来のために「我々に何ができるのか！今何をしなくてはならないのか！どう生き残ってゆくのか」議論し実行に移すため、平成 23 年 4 月に地域住民の総意で那岐地区振興協議会「いざなぎ振興協議会」を立ち上げた。
- ・現状を認識しながら将来を見据え、自主性の高い住民自治を築けるよう、多くの住民の参画により、課題解決とこれからの地域づくりに積極的に取り組むことを目的としている。

### ◆ 活動写真 ◆



▲ 農産物販路拡大に向けた活動  
(摂津市農業祭へ出展)



▲ 自主防災組織確立に向けての取組



▲ 「本気の婚活」イベント

### 取組の成果

- ・婚活イベントの実施により、平成 24 年度に 7 組、平成 25 年度には 14 組のカップルが成立。町内外から高い評価を得ている。
- ・各種イベントには、積極的にテレビ・新聞等のマスコミを活用し、町内外に周知している。
- ・各種事業を行うことにより、廃校となった那岐小学校の利活用を図っている。

### 取組に工夫・苦労した点

- ・町の「日本 1/0 村おこし運動」に賛同し、地域経営・住民自治などに取り組んでいた 4 集落と、そうでない集落との温度差があり、全 15 集落の歩調を合わせるのに苦労した。
- ・全世帯から年会費を徴収しているが、全世帯に情報を伝えることと、住民にメリットを感じてもらうことに苦労している。
- ・平成 25 年度からは、集落支援員制度を活用し、地域事情に精通した人材が事務局として携わっている。

### 今後の取組内容・長期的な目標

- ・「いざなぎ活性化ビジョン」に定めた取組を基本に、すぐにでも取りかかることができること、3～5 年後を目途として取り組むこと、5 年より先を見越して取り組むこと、それぞれ計画的に取り組んでいきたい。